

平成24年度

事 業 報 告 書

(平成24年1月1日～12月31日まで)

# 平成 24 年度事業報告

## I. 概況

平成 24 年度の日本経済は、前年の東日本大震災から立ち直って力強く上昇に向かうことが期待されたが、思うように景気は回復しなかった。このような中、競馬産業を代表する中央競馬の売り上げは対前年比 104%余と増加したものの、大震災による前年度の大幅な落ち込みを勘案すれば、業績回復の兆しと見ることはできない。厳しい状況ではあるが、競走馬育成協会においては当初の事業計画にしたがって業務を遂行した。

平成 24 年度に実施した事業のなかで特筆すべきものは、育成技術講習会における参加者の大幅増であった。とくに、北海道、関東および関西地区の開催は大盛況であった。その講演録を機関誌「いくせい」に掲載し、育成技術向上に関する普及・啓発に努めた。

会員の関心が高い育成技術表彰事業では、表彰件数(該当率)が前年度よりやや増加しており、会員のたゆまぬ努力が反映されているものと推察された。また、平成 22 年より実施している牧場就業者参入促進事業は平成25年3月末で終了となるが、人材確保と後継者養成は業界発展の基盤をなすものであることから、前回同様に地方競馬全国協会が実施する「競走馬生産振興事業」に応募し、引き続き事業として実施していきたいと考えている。

かねてよりの懸案であった公益法人制度改革への対応について、当協会は平成 24 年 12 月 21 日付で、内閣総理大臣より公益社団法人へ移行に関する「認定書」の交付を受けた。

※平成 25 年 1 月 4 日付にて「公益社団法人競走馬育成協会」への移行登記を行った。

## II. 事業の実施状況

### 1. 育成技術表彰事業の実施

会員の育成技術の向上を図り、丈夫で強い馬づくりを目指した競走馬育成の健全な発展に資するため、日本中央競馬会からの助成金の交付を受け、引き続き育成技術表彰事業を実施した。会員の育成技術の向上を反映して平成23年度を2パーセント近く上昇した表彰件数となった。(表彰対象者は24Pの別表を参照) また、施行場における育成者表彰件数も2歳ステークス競走6競走を対象として行われた(実績:当協会会員3名が表彰を受けた)。

平成24年度 の実績	対象競走数	表彰件数	該当率 (%)	平成23年度 表彰件数	平成23年度 該当率(%)
新馬セリそ う	291	214	73.5	184	68.9
2歳重賞競走	16	9	56.3	13	86.7
障害重賞競走	10	0	0.0	0	0.0
他の重賞競走	112	15	13.4	16	14.2
3歳以上オー プン競走	74	11	14.9	16	21.9
計	503	249	49.5	229	47.9

## 2. 育成技術講習会の開催

競走馬の育成・調教に関する経営・飼養・衛生・環境管理及び馴致・トレーニング法等の知識や手法について、普及啓発を図り、丈夫で強い馬づくりに資するため、育成技術講習会を実施した。平成24年度においても従来どおり、日本中央競馬会、財団法人軽種馬育成調教センターとの連携、共催により以下のとおり開催し、多数の会員・関係者の受講参加を得た。また、年々高まる講習会への期待に応じて、北海道地区での育成技術講習会を平成15年度以来9年ぶりに実施した。

支部	開催月日	開催県	講演名	講師
東北	8月8日	青森	サラブレッドの生産、飼養管理等について	JRA 日高育成牧場 佐藤文夫氏
九州	9月27日	鹿児島	サラブレッドの飼養管理等について	JRA 日高育成牧場 佐藤文夫氏
関西	10月25日	滋賀	馬の調教について ～馬場馬術から競走馬の調教への提案～	JRA 馬事公苑 北原広之氏
関東	10月31日	茨城	馬の調教について ～馬場馬術から競走馬の調教への提案～	JRA 馬事公苑 北原広之氏
北海道	11月21日	北海道	育成期のサラブレッドの飼養管理等について	JRA 競走馬総合研究所 松井朗氏
			(パネルディスカッション) サラブレッドの飼養管理について～生産地での実例を交えて～	ハラマキファームクリニック 腹巻滋之氏 ファームコンサルタント獣医師 三浦久延氏 (株)ホクチク 谷川智幸氏 JRA ファシリティーズ(株) 澤村恭平氏

### 育成技術講習会の受講者数の推移

平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
164人	198人	234人	449人	748人

参考:北海道地区を除いた4地区(平成20～23年)の平成24年度受講者数は561名であった。

### 3. 軽種馬経営高度化指導研修事業（人材養成支援事業）の実施

軽種馬経営の安定につながる将来の基幹的技術者の確保及び高度な知識技術の修得の支援のため、引き続き、担い手育成事業（修学奨励金交付、生産育成技術者海外派遣研修）と生産育成牧場就業者参入促進事業を行った。

#### （1）担い手育成事業（うち生産育成技術者海外派遣研修事業）

会員の軽種馬育成に関する高度な知識・技術の習得を目的として、生産育成技術者海外派遣研修事業を前年度に引き続き実施した。平成24年度は、財団法人軽種馬育成調教センターから推薦された5名をアイルランドの研修機関 RACE(Racing Academy & Centre of Education)に派遣した。

また、平成22年度から実施している3ヶ月未満の短期研修については、6泊8日の行程で米国（競馬場、育成牧場、セリ市場など）に9名を派遣した。

#### （2）担い手育成事業（うち修学奨励金交付）について

平成22年度から開始した本事業は、財団法人軽種馬育成調教センターが行う育成調教技術者養成講習の平成24年4月入講生2名に対して、また、公益社団法人日本軽種馬協会が行う軽種馬生産育成技術者講習の平成24年3月入講生1名に対して、奨励金を交付した。

#### （3）生産育成牧場就業者参入促進事業

平成22年度から開始した本事業は、牧場就業促進ウェブサイト「BOKUJOB」、「牧場で働こうフェア in 東京競馬場」、「牧場で働こう見学会・夏休み牧場で働こう体験会」を主要な柱とし、当協会を主体とする競馬関係5団体（JRA、JBBA、BTC、競走馬協会、当協会）で構成する牧場就業促進事務局が運営した。

##### 1）牧場就業促進ウェブサイト「BOKUJOB」について

就職先としての生産育成牧場の認知、牧場での仕事に関する情報の提供を目的に平成22年度に開局したウェブサイトは、一層認知度が向上し、アクセス数が飛躍的に向上した。

年度	延べアクセス数	延べ利用者数
平成22年度	210,008	50,252
平成23年度	302,502	64,524
平成24年度	485,681	98,160

※平成22年6月にサイトオープン

##### 2）「牧場で働こうフェア in 東京競馬場」について

競走馬生産育成牧場等の業務を紹介し、牧場関係者と直接対話できる場としてのフェアは、7月25日に東京競馬場で開催され、16牧場が説明ブースを設け、409人の参加を得た。

講演等：社台ファーム代表 吉田照哉氏、JRA 調教師 角居勝彦氏  
 JBBA・BTC 研修案内、日本装蹄師会による造鉄実演  
 研修相談コーナー：日本軽種馬協会、軽種馬育成調教センター、日本装蹄師会、  
 静内農業高校、軽種馬青年部  
 その他：厩舎作業体験、乗馬体験、競馬博物館見学

### 3) 「牧場で働こうセミナーin 阪神競馬場」について（新規）

関西地区での「BOKUJOB」の周知（認知度の向上）、JRA施設での競馬開催日におけるイベント実施についての検証も兼ねて開催を行った。

日 時： 6月24日（日） 10時から15時30分まで

場 所： JRA阪神競馬場

説明ブース： 2牧場

研修相談コーナー： 日本軽種馬協会、軽種馬育成調教センター、軽種馬青年部

来場者： 見学者 1,300名、受付票提出者 180名（説明ブース等訪問者）

### 4) 牧場で働こう見学会・夏休み牧場で働こう体験会

#### ① 牧場で働こう見学会（関東地区3月24日、関西地区3月31日）

	会 場	中・高校生	保護者・大学生・ 教諭	計	申込者
関 東	シンボリ牧場・ビッグレットファーム銚田 TC	14 名	11 名	25 名	56 名
関 西	宇治田原優駿牧場・ 信楽牧場ほか	18 名	10 名	28 名	42 名

#### ② 夏休み牧場で働こう体験会（8月26日～8月31日）

下記のとおり、開催した。

参加者： 18名

場 所： 北海道日高地域（拠点：浦河優駿ホースビレッジ AERU）

研修先牧場： 杵臼牧場、辻牧場、様似堀牧場、まるとみ富岡牧場、  
 ビクトリーホースランチ、様似共栄牧場

協力機関： JRA 日高育成牧場、軽種馬育成調教センター、JBBA 静内種馬場、  
 社台スタリオン、AERU、BTC 卒業生

## 4. 2歳育成馬トレーニングセールスの推進

会員の育成成果を公開する場でもあるトレーニングセールスにおいて、より市場取引の活性化を図られるよう支援に努めた。

## 5. 育成施設等の整備に関する助成等の実施

### （1）軽種馬生産育成強化資金利子補給事業

育成施設等の整備のために会員が借受けた軽種馬生産育成強化資金の利子負担の軽減を図るため、財団法人全国競馬・畜産振興会から助成を受けて、引き続き利子補給事業を実施した。平成24年度は、1件の問い合わせがあったものの利用実現に至ったものではなく、継続4件について利子補給を実施した。

## (2) 畜産環境整備リース事業

家畜排せつ物を適正に管理をするための施設・機材を、財団法人畜産環境整備機構から借受けた2件(堆肥舎ほか)について、引き続き会員に再貸付を行った。

## (3) 競馬関連機材等有効活用事業

日本中央競馬会等で使用を取りやめた競馬関連の機器及び資材について、再利用を希望する会員に対して斡旋を行った。平成24年度については「トラクター」及び「軽トラダンプ」の斡旋を行った。

## (4) 畜産リース事業

財団法人畜産近代化リース協会が行う畜産リース事業について会員の申請事務を代行するものであるが、平成24年度については会員からの申込みはなかった。

## (5) 馬産地再活性化緊急対策事業（平成 21～26 年度）

平成 24 年度は 2 件の問合せがあったが、実施案件は無かった。

## 6. 育成情報誌発行事業の実施について

当協会の主要な行事、育成技術等の情報を提供するため、引き続き機関誌「いくせい」50号を発行した。

## 7. 協会組織の拡充について

### (1) 会員数について

新規会員の入会勧誘に努め、加入者は6名であった。一方、育成牧場の厳しい経営環境、経営者の高齢化、原発事故による廃業等により脱退者が相次ぎ、4名が脱退した。その結果、会員は期初177名から2名増加し、179名となった。

## Ⅲ 総務全般に関する状況

### 1. 会員の状況

	北海道	東北	関東	関西	九州	計	賛助会員
平成 23 年 12 月 31 日	91	10	33	24	19	177	9
増	2	0	2	2	0	6	0
減	3	0	0	1	0	4	0
平成 24 年 12 月 31 日	90	10	35	25	19	179	9

## 2. 役員に関する事項

役 職	氏 名	常勤・非常勤 の別	備 考
会 長 理 事	武 田 暁 朗	非常勤	
副 会 長 理 事	和 田 隆 一	常 勤	
副 会 長 理 事	荻 野 豊	非常勤	北海道支部長
常 務 理 事	二階堂 純 信	非常勤	7月1日常勤を解く
理 事	飯 田 正 剛	非常勤	
理 事	高 橋 司	非常勤	
理 事	諏 訪 豊 蔵	非常勤	東北支部長
理 事	沖 崎 誠一郎	非常勤	関東支部長
理 事	中内田 克 二	非常勤	関西支部長
理 事	柏 木 務	非常勤	九州支部長
理 事	赤 松 勇 二	非常勤	
監 事	安 達 正 奉	非常勤	
監 事	倉 澤 景 晴	非常勤	

注1. 現理事の任期は、平成25年2月24日まで。

## 3. 職員に関する事項

前期末職員数	増	減	今期末職員数
3名	0名	1名	2名

## 4. 会議の開催について

### (1) 総会の開催

#### 1) 通常総会を次のとおり開催した。

年月日：平成24年2月17日

場 所：日本中央競馬会本部ビル7階大会議室

議 題： ①平成23年度事業報告及び収支決算について  
②平成24年度事業計画及び収支予算について  
③平成24年度会費等の額及び徴収の方法について  
④公益認定申請について

### (2) 理事会の開催

#### 1) 第1回理事会

年月日：平成24年2月17日

場 所：日本中央競馬会本部ビル7階第1会議室

議 題： ①平成24年度通常総会付議事項について  
②平成24年度業務委託費の配分方法について

## 2) 第2回理事会

年月日: 平成24年8月2日

場 所: 日本中央競馬会新橋分館8階会議室

議 題: ①公益認定申請について  
②公益法人移行後の諸規程について  
③「役員報酬等の支給に関する規程」の一部改正について  
④平成24年度予算補正について  
⑤生産育成技術者海外派遣研修(短期)について  
⑥JRAとの「育成等に関する懇談会」提出議題について

## 3) 第3回理事会

年月日: 平成24年12月14日

場 所: 日本中央競馬会本部ビル7階 第1会議室

議 題: ①公益認定に伴う移行登記について  
②平成25年度定時総会の開催について  
③平成25年度暫定予算について

## (3) 書面理事会

### 1) 第1回書面理事会(平成24年3月14日)

入会の承認について(大瀧啓之、有限会社ワコーファーム、株式会社朝宮ステーブル)

### 2) 第2回書面理事会(平成24年5月8日)

入会の承認について(育成牧場ブルーステーブル)

### 3) 第3回書面理事会(平成24年7月11日)

入会の承認について(グッドホースクラブ、岩見ステーブル)

## (4) 日本中央競馬会との「平成24年度育成等に関する懇談会」の開催

年月日: 平成24年8月3日

場 所: 日本中央競馬会六本木事務所9階 第4会議室

議 題: ①今後の事業展開  
②育成技術表彰の維持と充実  
③育成技術者の確保・養成  
④育成牧場の基盤強化対策 ほか

## 5. 法人検査、監査について

### (1) 農林水産省による法人検査

#### 1) 現物検査

年月日: 平成24年7月27日

場 所: 日本中央競馬会新橋分館4階 競走馬育成協会事務室

内 容: 現金、会計書類その他

#### 2) 書類検査



内 容： 主として平成24年度業務について  
コンプライアンス体制について  
リスク管理体制の確認について

(3) 地方競馬全国協会による監査：該当なし

なお、公認会計士から、会計経理に関する指導を受けた(平成 25 年 1 月 11 日)。

6. 収支及び正味財産増減の状況並びに財産状況の推移

(単位:千円)

	平成 20 年 度	平成 21 年 度	平成 22 年 度	平成 23 年 度	平成 24 年 度
前期繰越収支差額	11,288	10,526	11,180	9,922	4,561
当期収入合計	85,923	81,102	120,211	120,842	114,514
当期支出合計	86,685	80,448	121,468	126,203	113,581
当期収支差額	△762	654	△1,257	△5,361	933
次期繰越収支差額	10,526	11,180	9,922	4,561	5,494
資産合計	49,211	51,192	45,979	41,102	49,010
負債合計	38,126	39,686	37,701	34,118	38,889
正味財産	11,085	11,506	8,277	6,984	10,121

以上

# 収支計算書総括表

平成24年1月1日 ～ 平成24年12月31日

(単位:円)

目	一般会計	軽種馬生産育成 強化資金利子 補給事業会計	軽種馬経営高度 化指導研修事業 担い手事業会計	軽種馬経営高度 化指導研修事業 就業促進会計	内 部 取 引 消 去	合 計
<b>I 事業活動収支の部</b>						
<b>1 事業活動収入</b>						
入会金収入	180,000	0	0	0	0	180,000
会費収入	5,026,000	0	0	0	0	5,026,000
補助金等収入	40,928,619	5,412,115	0	0	0	46,340,734
委託事業費収入	0	0	0	0	0	0
補助事業費収入	0	0	6,461,749	49,315,681	0	55,777,430
特定資産受取利息収入	1,988	0	0	0	0	1,988
雑収入	92,684	491	649	1,589	0	95,413
<b>事業活動収入計</b>	<b>46,229,291</b>	<b>5,412,606</b>	<b>6,462,398</b>	<b>49,317,270</b>	<b>0</b>	<b>107,421,565</b>
<b>2 事業活動支出</b>						
事業費支出	28,090,116	5,315,521	5,138,637	44,806,514	0	83,350,788
管理費支出	22,800,402	0	0	0	0	22,800,402
修学奨励金支出			1,140,000		0	1,140,000
推進事務費支出	0	97,085	462,006	2,011,095	0	2,570,186
育成経営の基礎調査事業費支出	0	0	0	0	0	0
競走馬資源有効活用調査事業費支出	0	0	0	0	0	0
補助金等返還金支出	0	0	702	2,241	0	2,943
<b>事業活動支出計</b>	<b>50,890,518</b>	<b>5,412,606</b>	<b>6,741,345</b>	<b>46,819,850</b>	<b>0</b>	<b>109,864,319</b>
<b>事業活動収支差額</b>	<b>△4,661,227</b>	<b>0</b>	<b>△ 278,947</b>	<b>2,497,420</b>	<b>0</b>	<b>△ 2,442,754</b>
<b>II 投資活動収支の部</b>						
<b>1 投資活動収入</b>						
特定預金取崩収入	6,813,312	0	278,947	0	0	7,092,259
<b>投資活動収入計</b>	<b>6,813,312</b>	<b>0</b>	<b>278,947</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>7,092,259</b>
<b>2 投資活動支出</b>						
特定預金取得支出	1,219,124	0	0	2,497,420	0	3,716,544
<b>投資活動支出計</b>	<b>1,219,124</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>2,497,420</b>	<b>0</b>	<b>3,716,544</b>
<b>投資活動収支差額</b>	<b>5,594,188</b>	<b>0</b>	<b>278,947</b>	<b>△2,497,420</b>	<b>0</b>	<b>3,375,715</b>
<b>III 財務活動収支の部</b>						
<b>1 財務活動収入</b>						
財務活動収入	0	0	0	0	0	0
<b>財務活動収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>2 財務活動支出</b>						
財務活動支出	0	0	0	0	0	0
<b>財務活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>財務活動収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>当期収支差額</b>	<b>932,961</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>932,961</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>4,561,131</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>4,561,131</b>
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>5,494,092</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>5,494,092</b>

# 貸借対照表総括表

平成24年12月31日現在

(単位:円)

目	一般会計	軽種馬生産育成 強化資金利子 補給事業会計	軽種馬経営高度 化指導研修事業 担い手事業会計	軽種馬経営高度 化指導研修事業 就業促進会計	内 部 取 引 消 去	合 計
<b>I 資産の部</b>						
1流動資産						
現金	9,013	0	0	0	0	9,013
預金	39,183,966	3,235,296	0	0	0	42,419,262
未収金	273,000	0	0	0	0	273,000
流動資産合計	39,465,979	3,235,296	0	0	0	42,701,275
2固定資産						
(1)特定資産						
退職給付等引当資産	1,682,438	0	0	0	0	1,682,438
特定預金	0	0	1,618,978	2,778,383	0	4,397,361
特定資産合計	1,682,438	0	1,618,978	2,778,383	0	6,079,799
(2)その他固定資産						
什器備品	0	0	0	0	0	0
ソフトウェア	0	0	0	0	0	0
電話加入権	229,320	0	0	0	0	229,320
その他固定資産合計	229,320	0	0	0	0	229,320
固定資産合計	1,911,758	0	1,618,978	2,778,383	0	6,309,119
資産合計	41,377,737	3,235,296	1,618,978	2,778,383	0	49,010,394
<b>II 負債の部</b>						
1流動負債						
未払金	33,680,088	3,235,296	0	0	0	36,915,384
預り金	291,799	0	0	0	0	291,799
賞与引当金	0	0	0	0	0	0
流動負債合計	33,971,887	3,235,296	0	0	0	37,207,183
2固定負債						
退職給付引当金	0	0	0	0	0	0
役員退職慰労引当金	1,682,438	0	0	0	0	1,682,438
固定負債合計	1,682,438	0	0	0	0	1,682,438
負債合計	35,654,325	3,235,296	0	0	0	38,889,621
<b>III 正味財産の部</b>						
1指定正味財産						
受取補助金等	0	0	1,618,978	2,778,383	0	4,397,361
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(1,618,978)	(2,278,383)	(0)	(4,397,361)
指定正味財産合計	0	0	1,618,978	2,778,383	0	4,397,361
2一般正味財産	5,723,412	0	0	0	0	5,723,142
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)	(0)	0	(0)
正味財産合計	5,723,412	0	1,618,978	2,778,383	0	10,120,773
負債及び正味財産合計	41,377,737	3,235,296	1,618,978	2,778,383	0	49,010,394

# 正味財産増減計算書総括表

平成24年1月1日 ～ 平成24年12月31日

(単位:円)

目	一般会計	軽種馬生産育成 強化資金利子 補給事業会計	軽種馬経営高度 化指導研修事業 担い手事業会計	軽種馬経営高度 化指導研修事業 就業促進会計	内 部 取 引 消 去	合 計
<b>I 一般正味財産の増減の部</b>						
<b>1 経常増減の部</b>						
(1)経常収益						
受取入会金	180,000	0	0	0	0	180,000
受取会費	5,026,000	0	0	0	0	5,026,000
受取委託費	0	0	0	0	0	0
受取補助金等	40,928,619	5,412,115	0	0	0	46,340,734
受取補助事業費	0	0	6,741,345	46,819,850	0	53,561,195
特定資産受取利息	1,988	0	0	0	0	1,988
雑収益	92,684	491	0	0	0	93,175
経常収益計	46,229,291	5,412,606	6,741,345	46,819,850	0	105,203,092
(2)経常費用						
事業費	26,920,116	5,315,521	5,138,637	44,806,514	0	82,180,788
管理費	18,391,716	0	0	0	0	18,391,716
修学額奨励金	0	0	1,140,000	0	0	1,140,000
推進事務費	0	97,085	462,006	2,011,095	0	2,570,186
補助金等返還金	0	0	702	2,241	0	2,943
経常費用計	45,311,832	5,412,606	6,741,345	46,819,850	0	104,285,633
当期経常増減額	917,459	0	0	0	0	917,459
<b>2 経常外増減の部</b>						
(1)経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用						
什器備品売却損	1	0	0	0	0	1
経常外費用計	1	0	0	0	0	1
当期経常外増減額	△1	0	0	0	0	△1
当期一般正味財産増減額	917,458	0	0	0	0	917,458
一般正味財産期首残高	4,805,954	0	0	0	0	4,805,954
一般正味財産期末残高	5,723,412	0	0	0	0	5,723,412
<b>II 指定正味財産増減の部</b>						
受取補助金等	0	0	6,461,749	49,315,681	0	55,777,430
雑収益	0	0	649	1,589	0	2,238
受取補助金返還金	0	0	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	△6,741,345	△46,819,850	0	△53,561,195
当期指定正味財産増減額	0	0	△ 278,947	2,497,420	0	2,218,473
指定正味財産期首残高	0	0	1,897,925	280,963	0	2,178,888
指定正味財産期末残高	0	0	1,618,978	2,778,383	0	4,397,361
<b>III 正味財産期末残高</b>	5,723,412	0	1,618,978	2,778,383	0	10,120,773

# 財 産 目 録

平成24年12月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金(手許有高)	9,013		
預金(三菱東京UFJ銀行本店)	42,419,262		
未収金(会費他)	273,000		
流動資産合計		42,701,275	
2 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付等引当資産	1,682,438		
特定預金	4,397,361		
特定資産合計	6,079,799		
(2) その他の固定資産			
什器備品	0		
ソフトウェア	0		
電話加入権	229,320		
その他固定資産合計	229,320		
固定資産合計		6,309,119	
資産合計			49,010,394
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金(表彰賞金他)	36,915,384		
預り金(源泉徴収税他)	291,799		
流動負債合計		37,207,183	
2 固定負債			
退職給付引当金(事業費)	0		
役員退職慰労引当金(管理費)	1,682,438		
固定負債合計		1,682,438	
負債合計			38,889,621
正味財産			10,120,773